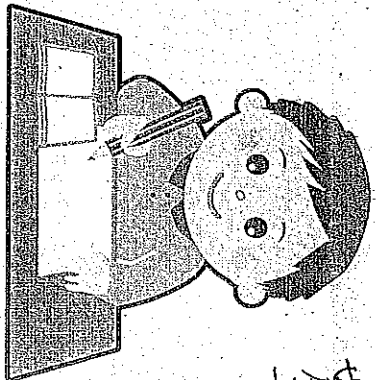




さいくぶん 作文の書き方のコツ



✿ 書きはじめ

作文の書きはじめは、「何だ?」「おもしろそう!」と思ってもらいたいですね。こんな書きはじめはどうでしょう。

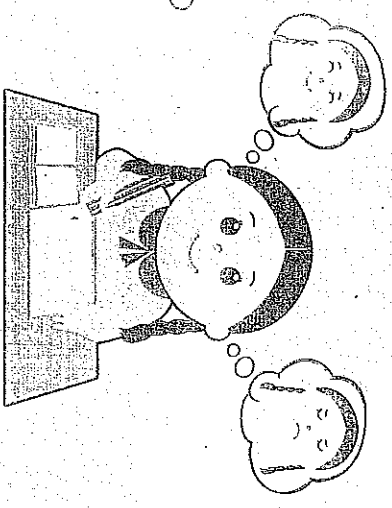
- ・ 場面:「げんかんを出たら朝日でまぶしかった。」
- ・ 会話:「どうしてわすれたの?」
- ・ 音や色:「ガサガサ」。とっせん、ぼくのうしろで何かが動いた。

✿ だらだら書かない

「○○しました。次に○○をしました。そして○○をしました。」というように、あったことをただ書くのはやめましょう。何を一番書きたいか、何を伝えたいかをよく考えてそのことをくわしく書くようにしましょう。

✿ 思いや考えを書く

書くことは、自分の考えを整理してまとめることです。楽しい! 悲しい! うれしい! などを書きましょう。そうするとあなたの思いが、人に伝わります。



✿ 感じたことを文章の中に入れる

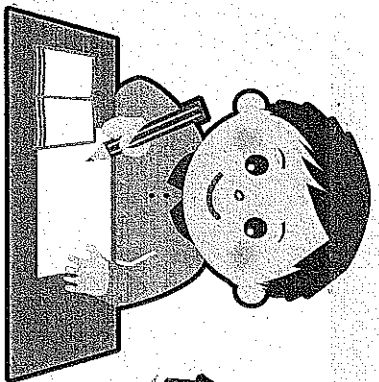
あなたの目で見たこと、耳で聞いたこと、さわったこと、におい、味など、あなたが感じたことを文章の中に入れてみましょう。文章がいきいきとしてきます。

✿ 書きおわり

作文の書きおわりは、むずかしいもの。読んだあとにいい印象が残るようなおわり方を工夫したいですね。

- ・ 場面:「だれもいなくなった教室にわたしだけがのこっていた。」
- ・ セリフ:「みんな、よくやってくれたね!」
- ・ まとめ:「~ということから、わたしは~だと思いました。」

作文の書き方、7つのコツ



1 書き出し

作文の書き出しは、読む人に「何だろう?」「おもしろそう!」と思ってもらいたいですね。こんな書き出しはどうでしょう。

- 場 面：玄関を出たら朝日でまぶしかった。
- つぶやき：「しまった、また失敗した!」私は思わずつぶやいた。
- 会 話：「どうして忘れたの?」

2 話題をしぼり込む

話題をしぼった方が読んでもらえます。「私の家族」よりも「私のいもうと」の方が、それよりも「いもうとのきらいなところ」の方が興味を持ってもらえます。しぼり込んだ話題について、こまかく書いていくのがいいです。

3 作文を書く前に、4コマまんがを書く

4コマまんがには、起承転結があります。作文を書く前に、作文の4コマまんがを書いてみましょう。ならべる順番をかえると、おもしろいまんがになることがあります。

4 注目した部分を書く

「だれだれが何々をしていました!」という文のくり返しは読んでおもしろくありません。たとえば友だちの表情、お父さんの服そうなど注目した部分を具体的に書くと、文章にふくらみが出ます。

5 自分の本音を出す

作文の主人公は自分です。自分の気持ちを変化したところを書きましょう。書くことは、自分の考えを整理してまとめることです。楽しさ、悲しさ、うれしさなど自分の本音を出すと、読む人にも伝わりやすくなります。

6 感じたことを文章中に入れる

自分の目(しかく)・耳(ちようかく)・手(しよつかく)・鼻(きゆうかく)・口(みかく)で感じたこと(これを五感といいます)を入れると文章に実感がわきます。五感を入れることで、文章がいきいきとしてきます。

7 書き終わり

作文の書き終わりは、意外とむずかしいもの。読んだあとによい印象が残るような終わり方をくふうしましょう。

- 場 面：だれもいなくなった教室に私だけが残っていた。
- 会 話：「みんな、よくやってくれてありがとう!」
- まとめ：~だったので、私は~だと思いました。

